

ジャーナリスト

田原 総一郎

5月25日午前、北朝鮮は地下核実験を実施した。06年10月以来、2度目の核実験である。さらに長距離弾道ミサイルの発射をもくろんでいるようだ。北朝鮮は、4月5日に「人工衛星打ち上げ」と称して、長距離弾道ミサイルの発射実験を行った。さらに、「6者協議は必要なし、核施設の再稼働」の宣言を打ち出し、そして再度の核実験を実施した。なぜ北朝鮮は、わざわざ世界の国々、特に擁護派であるロシア、中国などの神経を逆なでする行為を連発するのであるか。

金正日総書記は、明らかに6者協議ではなく、米朝の2国間協議を望んでいるのである。

オバマ米大統領は就任前から「積極的に各国との対話を進める」と表明していた。そこで金正日は、オバマは早々に北朝鮮にアプローチしてやるものと思いきや、どこかオバマは、アフガニスタン、イラク、

34年生まれ。東京12チャンネル(現・テレビ東京)のディレクターを経てフリージャーナリストに。「朝まで生テレビ!」「サンデープロジェクト」(テレビ朝日)などの司会としても活躍。著書多数。

論を恐れる外務省 にすべて委ねず 目が非核化先導を



イラスト: 野益 / The Asahi Shimbun

日本は、首相が2度も平壤に飛び、金正日総書記と長時間会談した、他に例のない国である。その日本が、麻生首相が、中国や北朝鮮との交渉を米国にすべて委ねて、手をこまねいてよいものなのか。

私は、日本こそが北朝鮮と交渉すべき、そして交渉する資格を他国以上に持っている国だと確信している。

だが残念ながら、現在、日本と北朝鮮との交渉は実質的には途絶えてしまっている。なぜ日本政府や外務省は本格的交渉に乗り出さそうしないのか。

ブッシュ前米大統領が、08年10月に北朝鮮の「テロ支援国家指定」解除を決めたとき、私は外務省幹部に、ブッシュが指定を解除したのは、日本に対する裏切りではないのか、とただしたことがある。北朝鮮は、確たる根拠もないままに亡くなったと発表した8人の拉致被害者について、再調査すると約束したが、何ら責任を果たしていないからである。

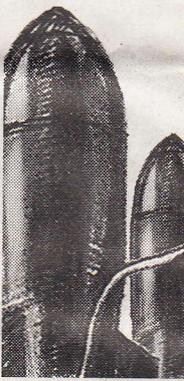
「米国には北朝鮮との交渉を進める上で、二つの課題がありました。一つはもちろんだ非核化について詰めること。もう一つは日朝関係、つまり拉致問題の解決です。しかし彼らにとって主眼は、あくまで非核化です。拉致問題については、できる範囲でもりまじょうという程度でした。そして、拉致問題に対しては、米国から言えば、もう日本には十分時間をやったという思いがあるんだと思います。」

幹部官僚は慎重な口調で話した。だが話している内容は重大である。

「小泉首相の訪朝の結晶の恩恵、そして小泉訪朝前全く逆目に出してしまった。記は拉致を行ったことを認めた。工作船などについてもそして拉致被害者5人と米国させた。残る8人についてを一応そろえた。これで口に対する憤りは鎮まり、口化への道が開けるものと期待です。だが結果は全く逆本国民の北朝鮮への悪感増してしまった。これで日本自信を失った。北朝鮮国民にどう対応していいかわかってしまった」

私は、これが外務省の主なところだ。小泉首相のウマになっているところだが、交渉をいたすもの、政府としては無いか。何よりも米国に北朝鮮と本格的な交渉をす

世米首



5月19日、中曽根元外相
見で、「外務省は安否不明
者はすべて生存しているよ
提に立っている」と表明し
葉を条件にするかぎり、北
を受け入れるはずはない。
実上交渉を先延ばしにす
している。中曽根外相は
づいていないのだろうか。
渉しないことを、強硬姿勢
しているのだろうか。
日本こそが米国、中国、韓
鮮と交渉すべきなのである。
現実には、世論を恐れて北
的交渉もできずにいる。中
対北朝鮮交渉を実質的に並
いるのは情けない限りだ。幸
今回の北朝鮮の核実験は、
国は事前に情報を得ていた
念ながら、おそらく日本は
かれていないようだ。また
部によれば、核実験以後、
に電話による首脳会談を導
る。そして北朝鮮とは交渉
せている。

5月19日、中曽根元外相
見で、「外務省は安否不明
者はすべて生存しているよ
提に立っている」と表明し
葉を条件にするかぎり、北
を受け入れるはずはない。
実上交渉を先延ばしにす
している。中曽根外相は
づいていないのだろうか。
渉しないことを、強硬姿勢
しているのだろうか。
日本こそが米国、中国、韓
鮮と交渉すべきなのである。
現実には、世論を恐れて北
的交渉もできずにいる。中
対北朝鮮交渉を実質的に並
いるのは情けない限りだ。幸
今回の北朝鮮の核実験は、
国は事前に情報を得ていた
念ながら、おそらく日本は
かれていないようだ。また
部によれば、核実験以後、
に電話による首脳会談を導
る。そして北朝鮮とは交渉
せている。

北朝鮮の核実験

ン、パキスタン問題に忙殺されてい
て、北朝鮮に顔を向けなかった。その
ため金正日は焦り、米国の強引に振り
向かせるために、ミサイルの発射実験
と核実験をした。

ミサイル発射実験に対して、日本は
北朝鮮を制裁するための国連安全保障
理事会決議を強く求めたが、中国が難
色を示し、結局は拘束力のない議長声
明となった。核実験には各国とも強い
怒りを示して、国連安保理決議に
はなるものの、北朝鮮が頼りとする中
国は、厳しい経済制裁には反対するは
ずで、米国がその中国をどこまで強く
説き伏せられるかが注目されていた。

ところが、5月末から6月初頭にか
けて、なんと米国のガイトナー財務長
官が北京に飛び、胡锦涛主席、温家宝
首相などと会談している。中国に、北
朝鮮に対する厳しい制裁への同調を求
めるのならば、クリントン國務長官が
北京に飛ぶべきである。ガイトナーの
訪中は当然、米国債などの買入れを
中国に「お願い」するためであろう。

このとき、スタインバーグ國務副長
官が東京にいて、米、日、韓が中軸と
なって、極めて厳しい制裁決議を実現
すると主張していたが、ガイトナーの
言動と明らかに矛盾している。

そして10日に、国連安保理の常任理
事国と日、韓の7カ国は北朝鮮に対す
る制裁決議案を最終合意した。予想は
していたのだが、問題の北朝鮮を出入
りする貨物の検査義務化については、
中国の主張通り、「国連加盟国に検査
を要請する」という拘束力のない表現
となった。核開発につながる資金・資
産の移転や、人道・開発目的以外の北
朝鮮への金融支援についても「阻止」
が「行わないよう要請」にとどまっ
た。つまり、米国が中国に大きく歩み
寄り形となった。一方、強硬派のスタ
インバーグは、米国は国連安保理の決
議とは別に、独自で北朝鮮制裁を実施
することを打ち出している。

指す「核を使用した唯一の保有国とし
ての道義的責任」に触れて、「核のな
い、平和で安全な世界をアメリカが追
求していくことを明確に宣言する」と
強調した。これは画期的宣言である。
しかし、アメリカが「核を使用した
唯一の保有国」であれば、日本はその
核によって被爆させられた世界で唯一
の国である。だから日本こそは、そし
て麻生首相は、オバマ大統領と組み、
むしろ先導して、世界の核保有国に向
けて非核化、核廃絶を強く求め、実現
に取り組むべきなのである。

米国は、金正日の後継者に三男金正
雲が定まるといふ情報で、金正日の体
調が予想外に悪く、核実験もこの事態
にからんでいるととらえていて、金正
日、いや北朝鮮自体の当事者能力をつ
かみかねているのではないだろうか。
そうであるならば、いまこそ日本の
出番だと私は考える。

オバマ大統領は4月5日にチェコの
プラハで、広島・長崎への原爆投下を
指す「核を使用した唯一の保有国とし
ての道義的責任」に触れて、「核のな
い、平和で安全な世界をアメリカが追
求していくことを明確に宣言する」と
強調した。これは画期的宣言である。
しかし、アメリカが「核を使用した
唯一の保有国」であれば、日本はその
核によって被爆させられた世界で唯一
の国である。だから日本こそは、そし
て麻生首相は、オバマ大統領と組み、
むしろ先導して、世界の核保有国に向
けて非核化、核廃絶を強く求め、実現
に取り組むべきなのである。

それは、北朝鮮の核は、端的にいえ
ば、核を保有する米国や中国、ロシア
にとっては現実には脅威ではないが、
日本にとっては深刻な脅威である。さ
らに、ノドン1500320基が日本
に向けていつでも発射できる状態にな
っているといわれている。

しかも、北朝鮮の経済復興のために
は国交正常化に臨んで日本が提供する
1兆円近い金が絶対になくはならな
いのである。金正日はこのことがよく
わかっている、誰よりも日本からの金
を待ち望んでいるはずである。

Opinion
オピニオン

寄稿

北朝鮮と交渉せよ

実は、日本の外務省が何より恐れて
いるのは、交渉相手の北朝鮮ではな
く、日本の世論なのである。それにお
びえるあまり、結果として、拉致被害
者の確認作業からごんごん遠ざかって
しまっている。

幹部官僚のいう「日本国民が納得す
べきである。」